

球磨川治水 ダムで8割

国整備計画 完成まで10年超

熊本豪雨

2020年7月豪雨で氾濫した球磨川水系の治水を巡り、今後30年程度の対策を定める国の河川整備計画の全体像が明らかになった。最大支流の川辺川に大規模な流水型ダムを建設し、想定最大の豪雨時に河川の容量を超える水量の約8割をカット。残り約2割は遊水地や河道掘削、堤防整備などで補完する構想だ。国土交通省はダムの完成に10年以上かかるとしており、水害リスクの低減には長い

リスク低減まで長い時間

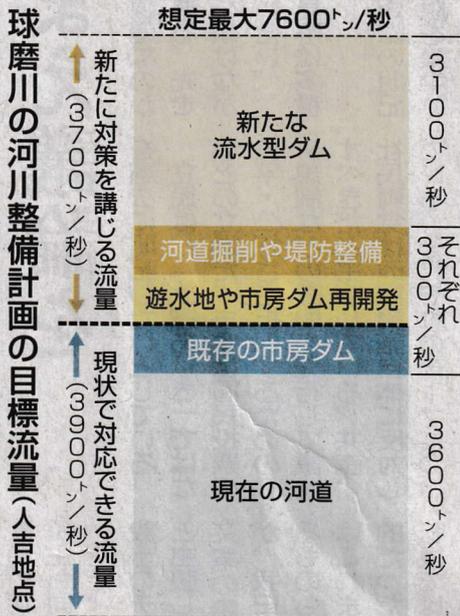
時間がかかる。

球磨川の整備計画の目標は人吉市で「50年に1度」の大雨を安全に流すこと。現状は上流の市房ダム(水上村)で毎秒300トンをカットした上で、人吉市では毎秒3600トまで流すことができる。合わせて毎秒

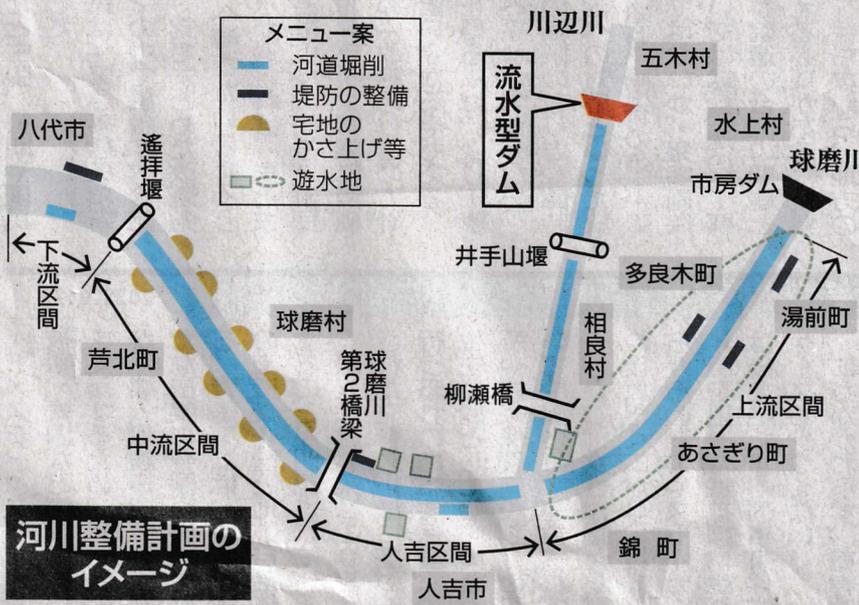
3900トの流量を、新たな整備計画では約2倍の毎秒7600トまで対応できるようにする。国土交通省は数百年に1度の7月豪雨と同規模の洪水が発生しても、人吉市付近では堤防からの越水を、球磨村など中流域では家屋の浸水被害を防げるとしている。

最も大きな役割

対策の各種メニューのうち最も大きな役割を担うの



球磨川の河川整備計画の目標流量(人吉地点)



が治水専用の流水型ダム。人吉地点で毎秒3100トの流量をカットする計画だ。これに加え、市房ダムに放流口を増やして洪水調節機能を高める再開発と、球磨村より上流の市町村に洪水をためる遊水地を設け

ることで、合わせて毎秒300トを削る。

残る毎秒300ト分は、河川の拡大などによる流下能力の強化で補う。球磨川本流と川辺川のほぼ全域で計480万立方メートルの河道を掘削。人吉市では非市街地部分で川幅も広げる。堤防の整備は被害の大きかった球磨村渡地区の引き堤を含めて計約8キロが対象。

中流域の山間狭^キ窄部では堤防整備の用地が確保しにくい^キため、家屋浸水が懸念される球磨村や八代市坂本町、若北町の全6地区で輪中堤の整備や宅地かさ上げに取り組む。

■合計4900億円

大まかなスケジュールでは、流水型ダム建設と市房ダム再開発を除いた主な対策は22年度から10年後までに完成する。20年後までに

両ダムの整備も終了する見込みだが、それまでは水害リスクの高い状態が続く。すべて完了するのはおおむね30年後となる。

概算事業費は総額約4200億円。このうち流水型ダムが約2700億円を占める。ただ、国が09年に中止決定した旧川辺川ダム計画で用地取得や住民の移転補償、道路などの関連工事に2200億円が既に投じられているため、合算すると約4900億円に上る。

旧ダム計画の約3400億円から1000億円以上の増額になる計算だが、九州地方整備局は「物価や消費税の上昇、追加の調査などが要因」と説明。それでもダム以外の代替案はさらにコスト増や長い工期などが見込まれるとして、今回の案が「最も適切」と強調する。
(内田裕之)